

県知事

溝口

息抜きは妻との街散策

主に国際畑を歩いた財務官だ。僚などを経て、県政トップの座に就いて8年。都会地で島根を売り込むために、出張時に地図を広げて場所を知ってもらうことから始め

就任時から力を入れる観光振興では、出雲大社の平成の大遷宮の効果などで2013年の観光収入が過去最多の3680万9千円を記録。県の場所を知ってもらうための「鳥取の左側で」との言葉や地図は「いらなくなかった」と手応えを感じている。

激務の中での息抜きは妻と

になる男児の2人の孫に恵まれた。2人が住む東京へ出張した際は、公務後のわずかな時間を見つけて絵本を読んだり、積み木をしたりして遊ぶ。どう呼ばれているかと問われると「『ちじ』でなく『じじ』」と答え、相手を崩す。

さん(9)の作品「リユースで、未来へ引き継ぐみんなの笑顔」が選ばれた。今後、啓発広報用の印刷物などで活用する。優秀作品の表彰の担当者や

トを強調し木谷院長に携わる看れ退職するとに触れ、ば訪問看護で働くこととして長い働く選択時もしれない

江津市内県立高2校

魅力化事業推進を

在り方検討会 市長に報告書提出

定員割れが続く江津市内の県立高校2校(江津、江津工)の在り方を考える検討会(松田夏夫会長)が27日、両校の生徒数確保に向けた高校魅力化事業の推進などを県教育委員会に求める報告書を、山下修市長に提出した。存続を求める一方で、適正な学校規模の必要性に理解を示す意見も盛り込んだ。

市は、検討結果の内容を育など両校の特色ある取り組を充実させるため、県外生徒募集枠の拡大や魅力化事業などの施策を要望した。統廃合については「事前に地域と十分に意見交換

し、問題解決の方向を示した上で再編計画を策定するよう訴えた。

また、市に対しても、高校魅力化コーディネーター設置、検討会の議論内容を市民に周知する方法の検討を求めた。

同市江津町の市役所で、松田会長から報告書を受け

益田圏域2病院が協定

医療機能分担 迅速対応可能に

益田赤十字病院(益田市乙吉町、木谷光博院長)と津和野共存病院(津和野町森村、須山信夫院長)は26日、診療の相互協力や人事交流などを盛り込んだ「医療機能連携協定」を締結した。従事者が不足する益田圏域の医療機能を分担しながら支え合う。

両病院は、救急や災害医療などで連携を図ってきた。これまでは院内外の手続きを経て、医師派遣などを行っていたが、協定を結んだことにより、迅速な対応が可能になる。

協定内容は、救急搬送を含む患者の紹介・受け入れ▽診療に関する相互協力・支援▽研修などによる医療技術の向上▽医療情報システム「まめネット」の利用促進など7項目。

医療・介護だけでなく、生活支援サービスも充実させる「地域包括ケアシステム」への対応でも連携する。須山院長は「急性期から在宅まで切れ目なく医療の機能分担ができる」とメリッ

3月定例 27日、総額

58議案可

【松江】 2625

【雲南】 2624
【奥出雲】 2626
【出雲】 2624

【大田】 2726
【江津】 2726

【益田】 26

石見

ネットでも いいものをお買いモノ!

47 CLUB

47CLUB 検索



山下修市長(左)に報告書を手渡す松田夏夫会長(中央)